

## I 事務事業基本情報

総合計画統括CD	01 02 02 03	重点政策分類	環境	所管部課	経済環境部水産林務課				
事務事業名	一般造林事業			担当課長名	今藤 康之				
総合計画分類	C/D	名 称		作成者名	黒田 格男				
政策	01	産業		担当歴	平成 30 年度から				
施策	02	健全な林業の振興		電話(内線)	535				
基本事業	02	森林の持つ多面的機能の維持増進		事業年度	開始年度	不明			
					終了(予定)年度	-			
H29会計区分	1	一般会計		新継区分	<input type="checkbox"/> 新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続	経費区分	<input checked="" type="checkbox"/> 政策 <input type="checkbox"/> 投資 <input type="checkbox"/> その他	補助・単独区分	<input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 単独
予算科目	款	6 農林水産業費							
	項	2 林業費							
	目	2 一般造林費							
予算書上の事務事業名	一般造林事業			根拠法令・個別計画等	事業実施の根拠となる法令、条例、規則、要綱及び個別計画を全て記載 森林法 伊達市森林整備計画・伊達市森林経営計画				

## II 事務事業概要

対象	誰を、または何を対象とした事務事業なのかを具体的に記載	市有林	執行形態	事務事業の執行方法をチェック <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 補助・負担金 <input type="checkbox"/> 市民と協働 (委託・交付先等: 胆振西部森林組合)					
	目的	当該事務事業が何をねらいとし、対象をどのような状態にしたいのか。また、どのような成果を目指しているのかを具体的に記載 伊達市森林整備計画、森林経営計画に基づき、市有林の植栽から保育に至る一貫した造林事業を実施することにより、森林が有する水源涵養、国土・環境保全、木材生産等、多様な機能の強化を推進する。							
成果指標 (outcome)	成果	成果指標名	単位	25年度 (実績)	26年度 (実績)	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (実績)	30年度 目標値
		「目的」がどの程度達成されたか(成果)を測定できる適切な指標(数値等)を最低1以上設定して記載							
		① 市有林面積	ha	2,297	2,294	2,293	2,293	2,230	2,230
	②								
	③								
	成果指標の考え方・計算根拠等	①における数値は、現状維持として設定							
	総合計画の成果指標に係る活動成果	重点政策(食・教育・生きがい・環境)については、総合計画「Ⅲ-2重点政策」(P16~P23)で定めた成果指標について記載 森林面積							
		ha	32,396	32,396	32,396	32,396	32,396	32,396	32,396
手段 (output)	手段	上記目的を達成するために、どのような方法で事務事業を実施したのかを具体的に記載 植栽、下刈、除間伐等の実施							
	活動実績	活動指標名	単位	25年度 (実績)	26年度 (実績)	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (実績)	30年度 目標値
		「手段」として提供した行政サービスや活動の実績を指標(数値等)に表して記載							
		1 植栽面積	ha	16.64	17	3.7	11.68	8.3	6.3
		2 下刈面積	ha	124.98	132.62	131.07	112.01	99.69	83.32
		3 除間伐等面積	ha	21.64	27.37	30.01	12.96	45.06	13
	活動指標の考え方・計算根拠等	伊達市森林経営計画等による事業実施予定、及びH30年度の道の補助金予算に基づき算出							
事務事業の現状と課題	事業の現状と事業を進めていくうえで課題となっていた事項を記載 伐採を迎えている市有林などがあり森林整備を行う必要があるが、作業路網等が未整備の箇所があるため、伐採困難な地域が存在する。								
改善点	上記の現状と課題に対し、当該年度の重点取組み事項、設定した目標を具体的に記載 森林整備を適宜進めながら、作業路の整備が必要な箇所を選定していく。								
	上記の重点的取組み事項、設定した目標に対する改善内容及び検討(実施)中の改善内容及び当該年度を記載								
	<input type="checkbox"/>	(平成29又は30年度) 既に改善済	<input type="checkbox"/> 事業内容 <input type="checkbox"/> 投入経費 <input type="checkbox"/> 人員の配置 <input type="checkbox"/> その他						
<input checked="" type="checkbox"/>	(平成30年度) 改善を検討中(又は実施中)	<input type="checkbox"/> 事業内容 <input type="checkbox"/> 投入経費 <input type="checkbox"/> 人員の配置 <input checked="" type="checkbox"/> その他	作業路網の整備を進めていき、伐採適齢期を迎えた森林を伐採するとともに、今後の市有林整備計画を策定する。						

平成 29 年度実施事業		総合計画統括CD 01 02 02 03		重点政策分類	環境	所管部課	経済環境部水産林務課
事務事業名	一般造林事業				CD	担当課長名	今藤 康之
					03	作成者名	黒田 格男

### Ⅲ 投入経費 (input)

投入経費 区分	25年度 (実績)	26年度 (実績)	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (実績)	30年度 (計画)
<b>直接事業費 (A)</b> 千円	<b>25,635千円</b>	<b>28,879千円</b>	<b>24,435千円</b>	<b>25,248千円</b>	<b>26,997千円</b>	<b>17,053千円</b>
国・道支出金 千円	17,217千円	19,407千円	16,482千円	15,397千円	17,854千円	11,596千円
地方債 千円						
その他特財 千円	7,946千円	7,228千円	7,953千円	4,490千円	6,525千円	639千円
一般財源 千円	472千円	2,244千円		5,361千円	2,618千円	4,818千円
<b>参考人件費 (B)</b> 千円	<b>822千円</b>	<b>1,164千円</b>	<b>1,159千円</b>	<b>1,147千円</b>	<b>1,135千円</b>	<b>1,167千円</b>
一般職員 千円	822千円	1,164千円	1,159千円	1,147千円	1,135千円	1,167千円
一人当たり年間平均給与 千円	5,481千円	5,821千円	5,794千円	5,733千円	5,673千円	5,835千円
投入人員 人	0.15人	0.20人	0.20人	0.20人	0.20人	0.20人
嘱託職員 千円						
一人当たり年間平均賃金 千円	2,365千円	2,428千円	2,550千円	2,602千円	2,664千円	2,722千円
投入人員 人						
臨時職員 千円						
一人当たり年間平均賃金 千円						
投入人員 人						
<b>投入経費 C=(A+B)</b> 千円	<b>26,457千円</b>	<b>30,043千円</b>	<b>25,594千円</b>	<b>26,395千円</b>	<b>28,132千円</b>	<b>18,220千円</b>
<b>人件費比率 D=(B/C)</b> %	<b>3.1%</b>	<b>3.9%</b>	<b>4.5%</b>	<b>4.3%</b>	<b>4.0%</b>	<b>6.4%</b>

### Ⅳ 一次評価

評価の視点	評価	判断理由 (左記の評価を選択した理由を具体的に記載)
観 点 別 評 価	<b>目的妥当性</b> 今後も市が主体または関与して事務事業を行っていくことは妥当か？ <input type="checkbox"/> 法律等で義務付けられている <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	(法律等名称: ) 市有林を適正に管理することにより、森林のもつ公益的機能維持、財政負担の平準化、将来的な財産形成となることから、妥当である。
	<b>有効性①</b> 成果が出ているか？ <input type="checkbox"/> 目標とする成果が出ている <input checked="" type="checkbox"/> 少し成果が出ている <input type="checkbox"/> 思うように成果が出ない	施業を実施した箇所の森林は順調に生育している。
	<b>有効性②</b> 成果を向上させることはできるか？ <input type="checkbox"/> 大きく向上できる <input checked="" type="checkbox"/> 向上できる <input type="checkbox"/> 向上は難しい	伐採適齢期となっている箇所の森林の更新を計画的に行うことによって可能である。
	<b>効率性</b> 妥当な経費で事業が執行されているか？または、成果を落とさずに投入経費を削減することはできるか？ <input type="checkbox"/> 経費削減は可能 <input checked="" type="checkbox"/> 経費削減は難しい	伐採木の売払収入により経費削減は可能であるが、植栽～伐採までの期間が長期に至る上、事業実施に際し、国費・道費の配当によって事業量が大きく左右されることから、継続的な経費削減は困難である。
	<b>公平性</b> 事業が一部受益者に偏っていないか？受益と負担のバランスは妥当か？ <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	市民の財産である市有林の適正管理、森林のもつ公益的機能保全のための事業である。

今後の方向性	方向性の判断理由 (左記の方向性を選択した理由を具体的に記載)
総合一次評価 <input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 事業完了	森林の健全な成長を促し、森林の維持・増大を図ることによって、良質な木材生産を行うことができる。その結果、林業の振興が図られるため、伐採適齢期を迎えた市有林の伐採等を積極的にを行い、補助事業の活用により効率的に更新を図っていく必要がある。

担当課長コメント	事業の進捗状況及び今後の展望等について記載
	民有林の森林整備は、伊達市森林整備計画や森林経営計画に基づき計画的に行っている。森林所有者への森林整備促進のためにも、市が率先して計画的に整備する必要があることから、補助制度を活用して森づくりを進めるべきと考える。

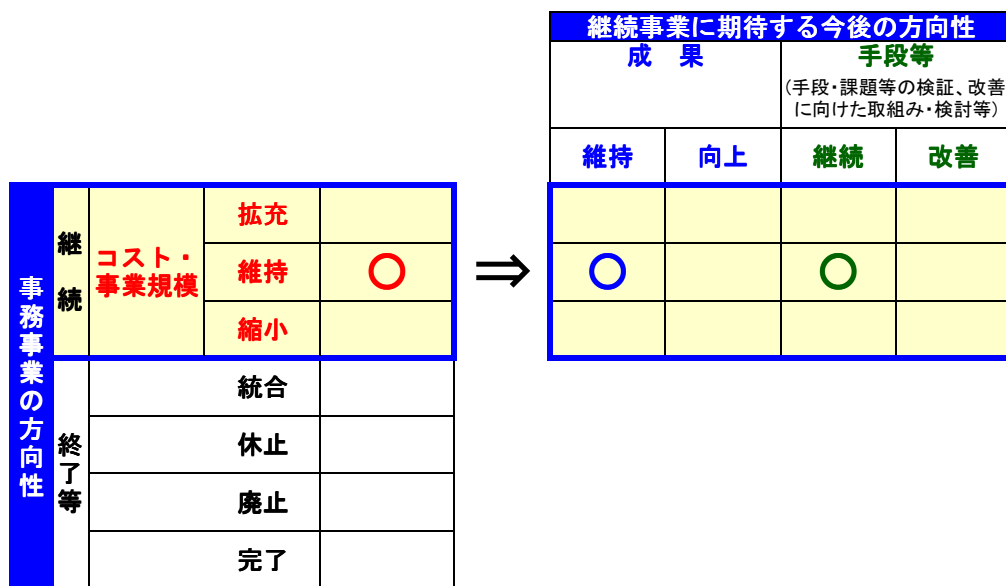
◆ 事務事業評価会議の検討内容

平成 29 年度実施事業	総合計画統括CD	01	02	02	03	重点政策分類	環境	所管部課	経済環境部水産林務課
事務事業名	一般造林事業					事業CD	03	担当課長名	今藤 康之
								作成者名	黒田 格男

1 二次評価

評価項目	評価の視点			評価
	評価の凡例	評価項目の求める水準を達成している。		
		大きく向上できる	○	
		向上を期待できる	△	
観点別再評価	目的妥当性	今後も市が主体、または関与して実施することが妥当である。		○
	有効性①	成果が出ている。または、事務事業の目的が達成されている。		△
	有効性②	今後、成果を向上することができる。または、成果を向上させる余地がある。		△
		評価の凡例	大きく向上できる	
			向上を期待できる	△
効率性	妥当な経費で事業を執行している。		○	
公平性	受益と負担のバランスは適当である。		○	
事業ランク評価	総合計画上の視点	総合計画における当該事業の位置付けが明確であり、かつ本計画の施策の推進に貢献度が高いと認められる。		○
	事業の必要性の視点	既に明らかとなっている課題や、今後予想される課題の解消に向けて、当該事業の必要性が真に認められる。		○
	事業効果の検証の視点	事業の効果が客観的に検証されている。または、事業の効果が現れていない場合であっても、その原因を分析し、有効な方策が検討または実行されている。		○

2 二次評価に基づき期待する今後の事務事業の方向性



3 その他（特記事項・評価に関する補足事項等）

市有林の整備を促進することにより、環境保全や防災対策など様々な機能強化につながることから、今後も効率的に事業に取り組まれることを期待します。